



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

6. 施設栽培「シャインマスカット」の結実安定のための花穂整形方法

[要約]

施設栽培の「シャインマスカット」では、開花直前の花穂整形時に花穂の先端部を 3 ～ 3.5 cm 程度に整形すると結実率が高くなり、良好な房づくりが可能となる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

施設栽培の「シャインマスカット」では、開花期の天候が不順な年には結実不良を生じやすく、着粒不足による秀品率の低下が問題となっている。このため、現地では花穂整形時に先端部を長く残そうとするが、花穂先端部の長さで結実の関係は不明である。そこで、開花直前の花穂整形時の先端部の長さが結実に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 無加温栽培における結実率は、花穂整形時の花穂先端長が 3 ～ 3.5 cm 区は 5 ～ 5.5 cm 区に比べて明らかに高い。2 月上旬加温栽培でも、3 ～ 3.5 cm 区では 5 ～ 5.5 cm 区に比べて有意な差ではないもののやや高い。また、80% 以上結実した花穂の割合は、両作型ともに 3 ～ 3.5 cm 区では明らかに高い（図 1、表 1）。
2. 両作型において、3 ～ 3.5 cm 区の結実数は約 50 ～ 60 個であり、十分な結実数が確保されている（表 1）。
3. 2 月上旬加温栽培における穂軸長は、5 ～ 5.5 cm 区では約 12 cm で明らかに長いものの、3 ～ 3.5 cm 区では栽培指針で管理の目安としている約 8 cm となる（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験では開花直前（満開 4 ～ 6 日前）に花穂整形を行ったもので、さらに早い時期に花穂整形を行う場合は、その後の伸長も考慮してやや短めとする。
2. 両栽培ともに、無核化処理ではジベレリン 25ppm にフルメット 5 ppm を加用した結果である。
3. 結実安定のためには、本成果とともに、開花期頃の摘心を徹底し、結実安定のためのホルモン処理を満開時～3 日後に行う。



[具体的データ]



5 ~ 5.5 cm

3 ~ 3.5 cm

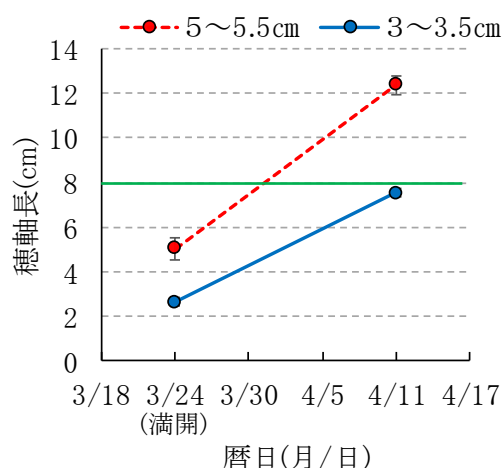
図 1 花穂整形の長さの違いによる先端部の状況
(矢印の範囲を花穂先端部の長さとして計測)

図 2 2月上旬加温栽培「シャインマスカット」における花穂整形時の先端部の長さが穂軸の伸長に及ぼす影響

表 1 「シャインマスカット」の施設栽培における花穂整形時の先端部の長さが結実に及ぼす影響

作型	区	花穂先端 長(cm) ^w	開花前 花蕾数	結実数	結実率 (%)	ショットベ リー率(%)	80%以上結実した 花穂の割合(%)
2月上旬 加温栽培 ^z	5~5.5cm	5.2	109.8	91.0	85.4	7.4	60.0
	3~3.5cm	3.0	55.2	50.0	91.5	6.5	100
	有意性 ^x	**	**	**	ns	ns	*
無加温栽培 (コンテナ樹) ^y	5~5.5cm	5.6	120.3	80.2	66.4	12.3	13.3
	3~3.5cm	3.5	71.6	57.2	80.5	12.9	58.8
	有意性	**	**	**	**	ns	**

^z 2016年12月26日保温開始、加温期間2017年2月3日～6月16日(17℃)^y 40Lコンテナ栽培、保温期間2016年12月26日～2017年6月16日(二重被覆)

結実の悪い状況下での影響を明らかにするため、満開9日前～18日後まで樹上に遮光ネットを設置し、開花期の副梢管理を放任

^x 80%以上結実した花穂の割合は、 χ^2 検定により、**は1%水準、*は5%水準で有意差あり。その他の項目はt検定により、**は1%水準で有意差あり、nsは5%水準で有意差なし(結実率及びショットベリー率はarcsin変換後)^w 2月上旬加温栽培は満開4日前、無加温栽培は満開6日前の先端部の長さ

[その他]

研究課題名：加温栽培「シャインマスカット」の高糖度・高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2016～2020 年度

研究担当者：久保田朗晴、安井淑彦、中島譲、藤原聡

関連情報等：1) [平成 27 年度試験研究主要成果、53-54](#)